

川島織物セルコン ミラノデザインウィーク2022 へ出展

WOVEN NARRATIVES - Kyoto, the landscape of Four Symbols -

アートディレクションにクリエイティブユニット AtMa inc. を迎え、
ミラノ最古の文化協会 Circolo Filologico Milanese でインスタレーションを開催

会期：2022年6月7日(火)～12日(日)



株式会社川島織物セルコン(本社:京都市左京区 社長:木村弘一)は、2022年6月7日(火)～12日(日)、イタリア・ミラノで開催される世界最大規模のデザインイベント ミラノデザインウィークに出展し、『WOVEN NARRATIVES - Kyoto, the landscape of Four Symbols -』(邦題:移ろう景色の中で紡ぐ物語 - 四神が司る京都 -)をミラノ最古の文化協会 Circolo Filologico Milaneseの図書館で開催します。

2019年に次いで2回目のミラノデザインウィーク出展となる今回は、アートディレクションに世界から高い評価を受けるクリエイティブユニットAtMa inc.を迎え、「四神が司る京都」をテーマにしたインスタレーションを展開。川島織物セルコンの発祥の地であり、移ろいながらも1000余年の時を超えて続いてきた京都の景色と、古来より東西南北から京都を守ってきたとされる神話上の霊獣「四神」(青龍・朱雀・白虎・玄武)の物語を、新たに発表する8種の織物と空間構成で表現します。創業より多岐にわたる織物を手掛ける中で培ってきた織りの知識や伝統技術に、現代の技術や素材を融合させ、より豊かな表現力を有する織物を追求しました。新作織物が創り出す空間を通して、時代を超えて紡ぎ続ける物語と、革新を続ける織物の可能性を示唆していきます。

インスタレーション「WOVEN NARRATIVES - Kyoto, the landscape of Four Symbols -」

川島織物セルコン発祥の地 京都は、1000余年有為転変の物語を紡いできました。その京都において、不祥を遠ざけものごとの流れを順調ならしめると言われ、古来より東西南北それぞれの地（川・道・池・山）から守ってきたとされる神話上の霊獣 四神（東:青龍、西:白虎、南:朱雀、北:玄武）。本展は、ミラノで古くから親しまれ、さまざまな物語が詰まった図書館を舞台に、新たに発表する8種の織物を家具に模したオブジェやタペストリーで展示。移ろいながらも長きにわたって続いてきた京都の景色と、「四神」が守護する京都が紡いできた物語を多彩で表情豊かなインスタレーションで表現します。

新作織物

伝統的な手織りの織物4種に加え、本展のアートディレクター AtMa inc.がデザインを手掛け、光の差す角度によって見え方が変わる機械織りによる織物4種の全8種を新たに発表します。創業より約180年にわたりさまざまな織物を生み出す中で培ってきた織りの知識と伝統技術に、現代技術が融合して生まれた新作織物が、新たな物語を紡いでいきます。

<四神 | Four Symbols>

東西南北それぞれの地から京都の地を司り守ってきたとされる神話上の霊獣「四神」。不祥を遠ざけ、ものごとの流れを順調ならしめると言われ、古来より正倉院宝物をはじめ、さまざまな装飾に用いられてきました。川島織物セルコンでも、室内装飾や帯地のモチーフとして採用するなど、大切に受け継いできた文様の一つです。本展では、デザイナーアーカイブの中から1930年頃にデザインされた「四神」を再解釈し、手織りの織物で現代に蘇らせました。緻密なデザインや重厚感を表すのに適した西陣織の伝統的な4種の織技法に、現代の素材や表現を組み合わせ、伝統工芸士である職人が丁寧に織り上げています。

青龍 | Seiryu



京都市の東部を流れる鴨川を司ると言われ、東方から京都を守護する霊獣「青龍」。豊麗で重厚な唐織と、伝統的な織技法「引箔」で織り込んだ光沢のあるレンズシートで、鋭い爪と長い舌を出した勇ましい青龍の姿を表現しました。

唐織：かつて中国（唐）から渡来した装飾性の高い美術織物の総称。現在は、綾織地の上に金糸・銀糸や多彩な色糸で紋や絵柄を織り出していく技法のことで、独特の立体的表現と重厚感が特徴。日本の伝統芸能である「能」で使用される装束や花嫁衣裳などに用いられています。

白虎 | Byakko



京都市西部を通る山陽道を司ると言われ、西方から京都を守護する霊獣「白虎」。美しい肢体から神聖なものとされる西洋的な竹まいを描き出すため、綴織（西洋風）で図案の横方向から織り上げています。

綴織（西洋風）：フランスのゴブラン織と同種の織物で、絵や図柄を表現する織物としては最古の技法です。経糸（たていと）の下に図案（織下絵）を置き、隙間から見える図案の形に従って、緯糸（よこいと）で絵や模様を描くように織り込んでいます。

朱雀 | Suzaku



京都でかつて巨椋池（おぐらいけ）があった市内南部を司ると言われ、南方から京都を守護する霊獣「朱雀」。鳳凰のような翼を広げた姿で表される朱雀を、緞帳や帯などで用いられる横方向の図柄に適した東洋風の綴織を採用し、図案の下方方向から織り上げて描き出しています。

綴織（東洋風）：ゴブラン織と同じ手法ですが、特に日本で発展した東洋風の綴織は、手作業で織り込むため色数に制限がないこと等を活かし、絵画のような繊細な表現に優れています。またグラデーション表現の追求により生まれた、色と色の境界部分の美しさも特徴です。

玄武 | Genbu



京都市北部にある船岡山を司ると言われ、北方から京都を守護する霊獣「玄武」。脚の長い亀に蛇が巻き付いた形で描かれることが多く、その神秘的な様相を表現するため、品格と華やかさを併せ持つ紋ビロードを採用。さらに変化に富んだ日本刺繍を施すことで、より装飾的に仕上げました。

紋ビロード：パイル(ループ状の糸)と、カットパイル(ループ状の糸を裁断したもの)が生み出す表情の違いを活かした織物。緯糸と共に織り込んだ針金の上から糸をカットすることで、ビロード部分を作り出します。カットすることにより糸の断面の色が現れ、より深みのある色合いを発し、ビロード特有の柔らかな肌触りが生まれます。

<Landscapes | 京都の風景>

四神が鎮座するとされる京都の地(川・道・池・山)の景色を、歴史的背景にある色や形、関連する伝統的な文様を掛け合わせたデザインで表現。日本画の特徴である「ぼかし」を思わせる表情を作り出す独自の織物設計を施し、機械織りで織り上げました。豊富な色糸で織り成すカラーグラデーションや、多層構造の光彩フィルムをジャガード織で織り込むことにより、見る角度や光の当たり方によって多様に表情を変えていきます。海外でも評価の高い光彩フィルムを採用した織物が、さまざまな研究を重ねることでより豊かな表現力を持つ織物へと躍進し、移りゆく京都の景色を巧みに描き出しています。

鴨川 (東方)



かつては友禅流しが行なわれ、夏季の納涼床をはじめ、寛ぎの場として人々の生活に寄り添ってきた鴨川。この地を司る「青龍」の鱗や川波をイメージした文様「青海波」と青のグラデーションで、愛され続ける鴨川の景色を表現しました。

山陰道 (西方)



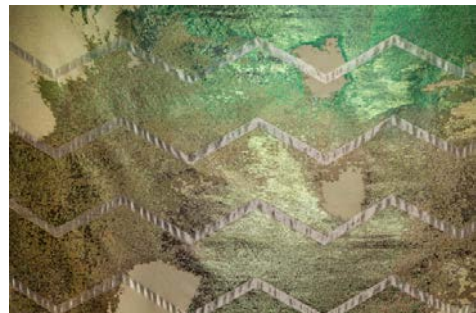
京都と周防国(現在の山口県)を結び、物資や情報などを運ぶ重要な役割を担ってきた山陰道。古くから人々が歩んできた道の歴史を表す地層をイメージした茶色のグラデーションとその道筋を文様「縞」を用いて織り出しました。

巨椋池 (南方)



蓮の名所として蓮見が行われていた巨椋池。漁業も盛んだったことにちなみ「網目文様」を採用し、池を彩った蓮の花の色をピンクのグラデーションで表現。豊かな環境を育み、多くの人に恩恵を与えていた今はなき風景を表しました。

船岡山 (北方)



京都市北部の景勝地として、古来より人々を魅了してきた船岡山。帰化植物がほとんどなく、樹種の極めて多いこの地を、さまざまな緑の織糸を用いたグラデーションと山形の連続模様「山路文」で織り上げました。

<メッセージ>

職人による伝統ある手織り、新しいアイディアに挑戦する機械織り、その二つの技術を用いて川島織物セルコンにとってゆかりのある「四神が司る京都」の物語を、織物がつくる風景を通して表現した。過去から受け継ぐ文化や伝統と、新しい技術を掛け合わせた多様な表現のオブジェ達は、無数に色や表情を見せその移ろいから、見る人に情緒的な感情を引き起こすだろう。

デジタル情報やモノが溢れる時代だからこそ、精度の高い織りが作り出す圧倒的な物質の存在と、そこに詰まった物語を感じて欲しい。物語があるものこそが人に伝わるものになっていくのではないだろうか。移ろいながら続く景色の物語。

<プロフィール>

鈴木 良と小山 あゆみにより2013年に設立されたクリエイティブユニット。ファッションショップやレストラン、ウィンドウディスプレイなどの空間のデザイン、ホテルやアパートメントのディレクションに加え、近年ではプロダクトデザイン、インスタレーションなど活動の幅を広げている。2019年のミラノデザインウィークでも大きな注目を集め、2020年のFRAME AWARDではエマージングデザイナー オブ ザ イヤー部門でPEOPLE's CHOICEを受賞。

<http://atma-inc.com/>



受賞歴

FRAME AWARD 2021 Retail shop design, Longlisted
FRAME AWARD 2020 Emerging Designer of the year, The Peoples Choice
Dezeen AWARD 2020 Emerging Designer of the year, Longlisted
Dezeen AWARD 2020 Small retail shop, Longlisted

Circolo Filologico Milanese

イタリア最古の全国新聞「Corriere della Sera（コリエーレ・デラ・セーラ）」の創設者であるEugenio Torelli Viollier（エウジェーニオ・トレッリ・ヴィオッリエール）が、外国語と文明に特化した文化の研究促進と普及を目的に1872年に設立した、ミラノ市内で最も古い文化協会で、イタリアで最初の文化団体の一つ。作家や詩人、劇作家、政治家、学者、ミラノ市長など著名な人物が会員に名を連ね、団体として数々の権威ある褒賞を受賞している。

1908年5月には、中央ホールの大窓と1階の錬鉄製のバルコニーが象徴的な当時の建築様式を色濃く残す建物に本部に構え、館内には本展「WOVEN NARRATIVES - Kyoto, the landscape of Four Symbols -」の会場となる図書館も併設。1875年より増え続ける蔵書は100,000冊を超え、貴重な古書を含め豊富な図書を収集・保存している。

イベント開催概要

タイトル	英題：WOVEN NARRATIVES - Kyoto, the landscape of Four Symbols - 邦題：移ろいの中で紡ぐ景色の物語 - 四神が司る京都 -
開催期間	2022年6月7日（火）～12日（日）10：00 - 20：00 *6月8日（水）のみ 10：00 - 18：30
Press Preview	2022年6月6日（月）12：00 - 20：00 *AtMa inc.のお二人が在廊いたします。インタビュー等をご希望の方は お申し付けください。
会場	Circolo Filologico Milanese 2F 8B https://filologico.it/ (住所：Via Clerici 10, 20121 Milano) MAP
展示面積	約75㎡
Art Direction / Installation Design / Pattern Design	鈴木 良 / 小山 あゆみ (AtMa inc.)
Graphic Design	杉森 裕介 (apart-apart inc.)
Lighting Design	岡安 泉 (岡安泉照明設計事務所)
Exhibition Cooperation	KOYA JAPAN Lighting 株式会社
HP 本展紹介ページ	https://www.kawashimaseikon.co.jp/info/news/20220526-01/
特設サイト	https://www.kawashimaseikon.co.jp/event/milan2022/

川島織物セルコン

1843年に京都で創業し、179年の歴史を持つ織物メーカー。古くは明治宮殿、近年では京都迎賓館や数々のラグジュアリーホテルに織物を納入するなど、その唯一無二のクオリティが高く評価されている。熟練の職人による伝統的な手織り技術に加えて、現代ならではのテクノロジーを駆使した機械織りも積極的に取り入れ、文化の継承と未来へつながる技術革新に力を注いでいる。京都の本社には、企画・デザインから染め・織りまで一貫生産を手掛ける織物の製造工場、歴史的価値の高い作品を所蔵する「川島織物文化館」、次世代に織物技術を継承する「川島テキスタイルスクール」を併設。織物文化の継承と発展、そして発信に努めている。

Website	https://www.kawashimaseikon.co.jp
Instagram	@kawashimaseikon_textiles
Facebook	@kawashima1843
YouTube	https://www.youtube.com/c/kawashima1843

商品に関するお問合せ先：

川島織物セルコン マーケティング部 田澤 / 板東
MAIL. branding-pj@ksc.kyoto TEL. 080.3763.7004 (板東)

プレスに関するお問合せ先：

川島織物セルコン “WOVEN NARRATIVES -Kyoto, the landscape of Four Symbols-” PR SUPPORT | 中村 加奈
MAIL. k-nak@zc4.so-net.ne.jp TEL.080.4360.0954